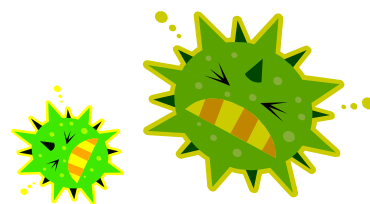


平成20年10月

京都市こどもの感染症



去年の今ごろ、京都市で多かった感染症

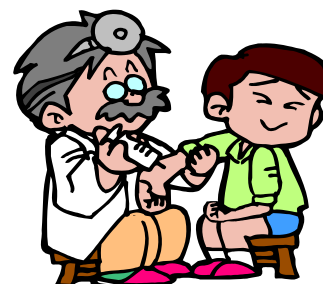
順位	病気の名前	特徴、予防法など
1位	感染性胃腸炎	発熱、下痢、嘔吐などが症状です。予防は、調理前、食事前、トイレの後などの手洗いが基本となります。下痢や嘔吐が続くと脱水症になりやすいので、水分補給をこまめに行いましょう。
2位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	のどの痛みと発熱で始まり、赤い発しんが全身に広がります。3～4日すると、舌がいちごのように赤くなってぷつぷつになるのが特徴（いちご舌）で、4～5歳のこどもに多い感染症です。
3位	水痘（水ぼうそう）	全身に発しんができます。感染力が強く、肺炎・脳炎・髄膜炎などの合併症を併発することもあります。発病3日以内に抗ウイルス薬を服用することで、症状の軽減が期待できます。予防接種は任意（1歳以上で、1回接種）ですが、集団生活をする場合は、受けておかれることをおすすめします。

麻疹（はしか）の予防接種を受けましょう

麻疹は、感染力がとて強く、風しんやおたふく風邪の2倍以上といわれています。

麻疹に感染すると、急性脳炎や、数年後に亜急性硬化性全脳炎という非常に重症の脳炎を発症することがあります。

麻疹にかからないために、また、人にうつさないために、予防接種を受けましょう。



麻疹の「予防接種済み証明書」を求められることも...

海外への修学旅行や留学の際、また、日本国内においても、教職や保育士過程などを選択する学生に対し、予防接種を2回受けたことの証明書の提出を求められることがあります。

次の年齢にあたる方は、**無料**で予防接種が受けられます

平成18年から、麻疹の予防接種には、麻疹・風しん混合ワクチンが導入されました。

免疫を完全につけるためには、1回の接種では不十分で、2回受ける必要があります。

今年度は、次に該当する方々が、**無料**で予防接種を受けることができます。

生後12月から24月に至るまでの間にある人

平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれの人

（5歳以上7歳未満で、小学校に入学する前の4月1日～入学する年の3月31日の間にある人）

平成7年4月2日～平成8年4月1日生まれの人（中学1年生に相当する人）（*）

平成2年4月2日～平成3年4月1日生まれの人（高校3年生に相当する人）（*）

* はこれまで2回目を接種する機会がなかった人が対象で、平成20年から5年間のみの暫定措置です。

予防接種は保険外診療のため、接種対象となっている方以外が受けられる場合には、約1万円程度（医療機関により異なります。）の自己負担が必要となります。

気になる症状があるときは、かかりつけの医療機関に相談しましょう

発行 京都市保健福祉局 保健医療課 / 衛生公害研究所
（本号及びバックナンバーは衛生公害研究所のホームページからも御覧いただけます。）